



小学校の時とはとにかく宿題は7月中に済ませ8月は遊びに命を懸けていました。毎日のように遊びに行ったのは、家から500mほど離れた神社です。そこには地域の公民館と滑り台やブランコなどの遊具があったのですが、もっぱら遊ぶのは遊具ではなく神社でした。私にとって、狛犬はよじ上ってまたがるもの、屋根は上っては飛び降りるものでした。良く木登りもしました。(前世はサルか!?)

神社の屋根に上って遊んだ日には必ず帰宅すると母に叱られました。母「こおらっ！また神社の屋根に登ってからっ！罰があたるけん止めなさいっ！」  
由佳「えっ!?!…なんで知つとると？」  
母「おてんとさまは何でも知つとると」  
由佳（ひょえ〜っ、お母さん千里眼ばい。。。）  
叱られてもめげずに、狛犬にまたがり尻を叩いてみたり神社の屋根から公民館の屋根に飛び移ったりして遊んではやはり必ず母に叱られました。

しばらく時が過ぎてから、神社の裏に住んでいるご老人が屋根で飛び回る私にヒヤヒヤして耐えられず、母に電話していたことが判明。おてんとさまはあちこちにいることを知ったそんな夏休みでした。今では狛犬を見るときごめんなさい、と心でつぶやく私です。



相変わらず仕事仕事の私なので「夏休み」というものは無かったですが…

今年広島は被爆60年、8月6日たまたまお休みだったので近くにありながらなかなかゆっくり見て回る事のない「平和公園」を朝からぐるっとまわってみました。何度も見慣れているはずの原爆ドームがこの日はまるでお祭りの中に有るように思えました。



今この歩いている地面の下に賑やかだった町並がひとつすっぽりと消えてしまっている事に、どれだけの人が気がついているのかな…

広島で生まれ育った私でさえ、「原爆ドーム」はずっと以前から「原爆ドーム」でこの姿のままでこの位置にあり、平和公園は市民の憩いの公園で、昔から平和公園…というイメージが強いので仕方ありませんが、ここ何年かこの場所にあった繁華街「猿楽町」のCG復元作業が話題になっているため猿楽町の町並み、人々の暮らしぶり、それを興味深く読んだり見たりするにつけ、ああ、この場所にもひとつの町があり人々が普通に暮らしていたんだな…と思うと公園を歩く私の足の裏にも何かそこに眠る人々の秘めた息づかいが響きそうなそんな感じがするのです。

終戦日とともにあって、さまざまな戦争に関するTVドラマがありましたが、その中の「広島」というドラマで主人公姉妹の暮らしていた場所（旅館）…これがまさしく「猿楽町」でした。「原爆ドーム」が「広島県産業奨励館」として美しい建物に甦り、人々は戦時下ではあっても少女は少女らしく、少年は少年らしくそして恋をしたり、夢に向かって歩いていました。

60年たって、やっと初めてこの場所に立つ事ができた…と言うある男性は原爆ドームの隣りに家があり、「母と弟がそのままこの場所に埋っています」と土を撫でていました。

あらためて、破壊という残酷さ、悲惨さ、平和の意味を考えさせられた夏でした。



現在、学生生活を送っているタツノオトシゴとしては、9月の末までが夏休みです。

（羨ましいですか？）確か7月の中旬からですので、なが～い休みです。もちろん、お仕事しながらですが……。7月の末には、日本海でバーベキューパーティへご招待があったのですが、何故か行けませんでした。土日には講義が入っており、レジュメの作成やら、大学院のレポートやらで全く休みがとれません。8月の13日だけは、高野山に墓参りで出かけることが出来、散策の時間も少し取れました。NPO法人の仕事にも追われています。兵庫県の補助金で行った仕事では、8月末までに報告書の作成と、WAMネットへの掲載を済ませないとなりませんでした。

今週も大学での講義があり、来週はケアマネの受験対策講義（社会人向け）の問題作成と講義が重なっています。そのような中で、9,11の選挙がありました。選挙のおかげで、講座の予定変更やら中止やら……。誰に文句を言えば良いのでしょうか？

でも、そのおかげで当日のコンサートのチケット1枚ゲットしました。

そりゃ～あ、キャンセルもでるでしょう(^ ^)！

大阪のシンフォニーホール、前から6列目でのフルオーケストラは良かったですよ

（うさおさんも来たかったでしょう！）そんな、こんなで休みらしい休みはまだ取っていませんが、今度の連休（18・19日）には泊りがけの研修旅行です。温泉に浸かって、美味しいご馳走（会席料理）が楽しみです。



でも、家族サービスがまだなので、9月末には埋め合わせをする予定です。レポートを7本提出し、レジュメ作成が3教科、予想問題を2科目分作成、集中講義を受けるのが13時間、自分で講義するのが25時間、夏の暑さにも負けず、東へ西へと走り回っている毎日でした。うさおさんと一緒に、伊豆大島などへ行けた時代が懐かしい……。今の仕事に区切りをつけたら、長期休暇をとって（別にとらなくても、無理やり長期休みにして）久しぶりに海外旅行にでも行きたいものです。「又、自分のことだけを考えている！」というクレームが入りそうなので、この辺にしておきます。仕事嫌いな「タツノオトシゴ」より、長い夏休みのレポートでした。( ^ ^ ; )



今年の夏休みは格別でした。というのは、人生初の「無職」という身分になったことにあります。学生、会社員、教員と切れ目なくわたり、それぞれの所属先が設定したささやかな期間を「夏休み」と認識してきたのですが、自由人になると与えられた夏休みがなくなるのですね。7年前になりますが、企業人時代はA、B、Zという3つのパターンがあって、それぞれ10日間位連続して休める制度でした。小生はいつもZパターン、自分で空いている時間を探して休暇を取る、を多用していましたので、9月に夏休みという場合もありました。

そんなわけで、自分の夏休み探しをしてみました。暦からいうと6月～8月の3ヶ月が夏なので、これ全体が夏休み期間ともいえるわけです。時折入る「セミナー講師」のような仕事やボランティアな学会活動を除くと、平均週休2.5日のペースなので、有職時よりも1日増えたかなというところです。

4月以降は碌を食んではいませんが、ボランティアに大学に行って、週1回の授業と卒業研究の学生の指導をしているので、この拘束を以って8月1日から9月20日を「夏休み」と考えるのがいいかも知れません。しかし、これはあくまでも学生のための夏休みで、教員の多くはこの期に論文をまとめたり、学会に出たりして、自分の研究に勤しむ時期であり、研究室に閉じこもって泊り込む人もいますので、真の夏休みとはいえない気がします。小生も今年は8月から9月にかけて2泊3日ペースで6回ほど学校のゲストハウスに泊り込んで研究活動を行っていました。

その間運動不足になるので、(学校が小高い丘にありますので)日に一度山を降りて周辺を歩き回りましたが、探検気分で楽しめました。1回2時間、ペットボトル持参で歩き回ってほどよい汗をかき、宿舎のシャワーを浴びてサッパリするという時間帯は至福といってよいでしょう。こんなに景色のよいところに勤めていたのかと改めて驚いた次第です。谷を縫っていくと気付かずに私道に入り込み、そこは袋小路になって、来た道を延々と戻らなければならなかったこともありました。また距離的には50mも離れていないのに、そこに行くには迂回して山坂を1kmも行かなければならぬところもありました。迷いそうな森林をやつとのこと抜けたら、目の前に鶴川が迎えて多くの釣り人が竿を出していたりもしました。雷に追いかけられたこともあり、山林と平地をほとんど駆け足で戻りましたが、雨雲が追ってくるのです。このときは本当に怖かつ



たですね。学校の方は陽が射しているのに、急に周辺が霧に囲まれるところに来てしまったこともありました。これが今年の夏休みの思い出になるでしょうか。

一方、学校には教職員用の夏季休業というのがあり、今年は8月12日から16日までの5日間でした。この期間の特徴は全校のユーティリティが落されてしまうことです。空調が利かなくなるので、常識的には出勤不可能になるのですが、バイオ系やアニマル系の教員は出ているようです。小生も「未来材料研究センター」という建物の中に研究室を貰っているのですが、空調は自律していて出勤可能ですが、無理しないことにしました。ところが、今年はISO 9004という品質システム規格の説明というセミナー講師の仕事が入ってきて、休みの半分はそれに裂かれてしまいました。

ながなが検証しつつ述べてきましたが、自由人には「夏休みはない」というのが結論になりそうです。でも、自由人は外部の拘束から逃れ1年中すべてお休み状態になる訳でもあります。これまで言葉どおりに休みを享受してしまった先輩知人で急速にボケたり、体が不自由になったりする人を見受けてきていますので、小生は何やかやと雑用を引き受けたり作ったりしています。何事につけても急激なストレス変化は寿命を縮めます。人にも機械にもいえる訳で、適度なストレス環境に身を置くようにしています。そこで、「毎日が夏休み」というのも結論になりますね。なにやらパラドックスめいてきました。そういえば、旅を味わうことができた7月の学会が今年の「夏休み」ともいえます。釧路市で学会があり、それに便乗して厚岸、根室、帯広を旅しました。本当は網走、旭川、富良野、小樽、札幌も考えていたのですが、仕事などが飛び込んできて断念しました。来年は稚内か旭川で学会があるということなので、それまで健康維持に努めることにしました。今回の旅行はいずれ「B級気まま旅」で紹介させて頂くことになるでしょう。ここでは一言、涼しさを通り越して寒かったとだけ申し上げます。北方領土はあいにく霧が深く見えませんでした。残念！



うさおと Cacco の凸凹万博（古いな表現が）

9月14日の夜に、「東京」発18:33分の東海道新幹線「のぞみ」に乗り、途中 **Cacco** とは「新横浜」で待ち合わせて、名古屋に向かったのだ。勿論、愛・地球博を見るためです。誰かがどうしても、国際赤十字・赤新月館に行きたいって言うので、仕方なくさ。



車内で食べる「崎陽軒のシュウマイ弁当」は美味しいね。ぱくぱくしてる間にもう名古屋に着きました。なんと1時間15分くらいで行っちゃうんだね。速い、速い。で、**由佳**ちゃんちにご一泊。（参照；ご近所トマソン隊かなあ「**由佳**ちゃんち探訪記」）

9月15日朝、**由佳**ちゃんにおにぎり（えーとね！青菜の漬物の微塵切りと松茸の炊き込みご飯でした。おいしかったよ。）を作ってもらって、名古屋から地下鉄東山線で「藤が丘」駅へ。**Cacco** は桜通線の看板にドキドキしていたようだけれども。

ここで**うさお**は大変な間違いに気が付きます。昨日の夜の段階で当然気が付くべきでした。リニモ君のことをJR東海が提供する磁気浮上型リニアモーターカーだとすっかり思っていたのでした。万博師匠(**由佳**ちゃん)に時速550km/h位でお客さんを運ぶのでしょうかねえ？と尋ねた時に、怪訝そうな顔をされたこと。しばらくの沈黙の後、リニア館もはずせないねって言われたこと。これらのサインを見逃してしまいました。

リニモ君は跨座式のリニア・トラムだった。中央にアルミ製のリアクション・プレートがあり、これで駆動してタイヤ走行し、軌道下部から集電装置で電源供給されているものだった。



東京都地下鉄12号線、大阪鶴見緑地線のリニア・メトロ（鉄輪粘着式リニアモーターカー）を日本地下鉄協会に参画してきた**うさお**としては大変なポカ。事前に情報を掴んでこなくちゃね。

万博会場に着くとごったがえすような人の波、**由佳**ちゃんからメール。手荷物審査があるからね。えーっ。・・・入場できたのは10時頃。当初予定より遅れること1時間。マンモスは吹っ飛ばして、国際赤十字・赤新月館に直行、行列の末尾に着くことに。待ち時間は3時間半とのこと。

5分後にはさらに人が集まり、4時間待ち、その後も人が集まってきたが入場制限を掛けていた。そんな人気があるのか？若い人だけでなくお年寄りも沢山いた。

暑い、暑いぞ。



小さなパビリオンで中に入ったら、大して企画屋さんの手が入っていないようなプレゼン。地雷などが飾ってあった。小さなTVに変なおじさんの無音のアニメーションが流れていた。しばらく見ているうちに、これがアンリ・デュナン（スイス人赤十字の提案者）の伝記であることが判った。奥に映像を映すためのブースがあることに気が付き、桜井和寿の歌声が。

アニメとやけにシンクロしている。まさか、中で流している映像はこれと同じじゃないよね。それにしても待たせること、待たせること。ブース内は寝そべるタイプのシートと4面のスクリーンが・・・寝ちやいそう。終わりました。

**Cacco** はシートに帽子を忘れ、取りに行ったらハンカチを忘れ係りの人をはらはらさせた。確かにお年寄り、女性で泣いている人がいた。由佳ちゃんのように号泣している人は居なかったよ。コメントコーナーでは、**由佳**ちゃんたちのメッセージを探しましたが、よく判りませんでした。ので、桜井を撮ってきました。



次はJR東海館に行きました。3D映像でリニアモーターカーが走ってました。

三菱館ではキンニ君のような案内のお兄さんの、列を離れたら横入りとして最後尾に並んでももらいますからねって叫びにも臆せず、列を離れ桜の瓦を撮りに行った**Cacco**。三菱館の列の脇の芝生には瓦で作られた桜がたくさん飾られてました。由佳ちゃんの住む高浜市は瓦の町。きっと高浜市提供の瓦でしょう。三菱館のスクリーンの桜吹雪もとっても綺麗でした。



ネパール、ウズベキ、スリランカ、ブータン、イラン、パキスタン、バングラディシュ、韓国など。亜細亜のパビリオンを回ったら、もうすっかり夜でした。

韓国館ではヨンさまと記念撮影。チマチョゴリのチェジウふう韓国美人が案内役。



ハリボテの光輝く大トラが韓国館  
入り口の番人。阪神タイガースならぬ  
ハングルタイガース！？  
祝・阪神優勝！！

愛・地球博の本格的案内は全館制覇のつわもの  
**由佳**ちゃんの **のほほん漫遊記**第二回 をお読み  
くださいね。優しい仏像様やかわいいロボットが  
たくさんいます。

帰りのアクセスもリニモ君で名古屋へ。  
人人人のすごい込みようと猛烈な暑さにぐったり  
だったけど有意義で楽しい夏休みでした！



### 北海道楽紀行

台風とともにうちの台風娘あとくんに行って来ました、北海道。旭山動物園には時間の都合で行かれなくなったとき、もう私の目的はないも同じ。となると残るは、あとくんの食紀行だけ。はいはい、好きなものをお食べくだされ。





羽田で空弁やさんに直行し、万世のかつサンドとよくある納豆巻とおにぎりを買込み機内でぱくぱく。飛行機が大嫌いな私は食べ物も喉を通らず、千歳に着いてひと安心していたら、あとくんはもうソフトクリーム。札幌に着いてススキノのラーメン横町へ。しかーし、ここのラーメンの頭に来るくらいのまずさに写真はなしよ。



私はふつーに、ミル貝や鯨の竜田揚げ。あとくんは、鯨のユッケに鯨のにぎり…。おいしいの？おいしいの？一口もくれなかったね。



次の日は見事に寝坊して、予定していた市場での朝食どころではなく、駅まで走り電車に飛び乗る。

座席に着いたあとくんの手にはしっかりロッテリアのハンバーガーが…。その日は富良野だったので、おいしいものはないな一と思っていたら、とうもろこしやら、スフレやら、チーズやら、へんな飲み物やら、挙句の果てに電車が来るまでの間に駅で立ち食いそば。恐るべし、食欲娘！



夜は鯨を食べに。



この他、じゃがいもやらおにぎりやらを食べ、帰り道にコンビニでカップラーメンを買ってホテルへ。勿論、夜食に食べてました。



ニングルテラスのへんな飲み物。

嬉しそうに、駅でおそばを食べる。



夜は、ジン、ジン、ジンギスカ〜♪  
初めて食べるので、お店のお兄さんに  
食べ方を聞くと、心もとない日本語で  
意味がわからないと言われた。  
前に高田馬場で「これは所沢に止まります  
か？」と聞いたら、「コレトッキュウダカラ、  
ダメダメ」と外国人に教えられたのは私です。



三日目は小樽。  
行くお店をいつの間にか決めていた  
あつくんのあとを着いてお寿司屋さ  
んへ。  
一皿をぺろりとやっつけ  
追加で鮑などを遠慮なく。  
追加で頼んだ方が鮑は美味しいって  
ほんとかい！？





麦酒でも飲みたい気持ちをぐっところえ  
あとくんが食べ終わるのを待つ。  
あたしの倍以上食べてるもんね、  
そりゃ時間かかるわ・・・。

前に溝の口で出店していたときに  
食べたケーキのお店が小樽にある  
というので、小樽の『ルタオ』へ。



そんなこんなで、娘は食べてばかりの旅行でしたが、私はいつもの食欲もなく痩せて  
帰って来ました。飛行機嫌いな私にいいことがひとつありました。ANAのオーディ  
オプログラムが浜省だったんですねー。浜省の歌とお喋りに集中して、大嫌いな飛行  
機に乗っているということを忘れようと努めている私の隣で娘はスープのお代わり  
をしていました。



最後に、食べ物以外の写真も載せておきます。  
大好きな『北の国から』の建物がある所の  
掲示板に貼ってあった北村草太の結婚式  
の写真。空知川は濁っていたけど、あたしの  
眼には筏に乗った草太の姿が見えていました。

